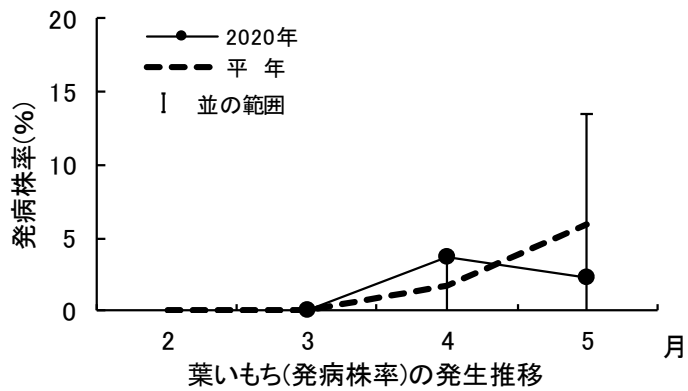


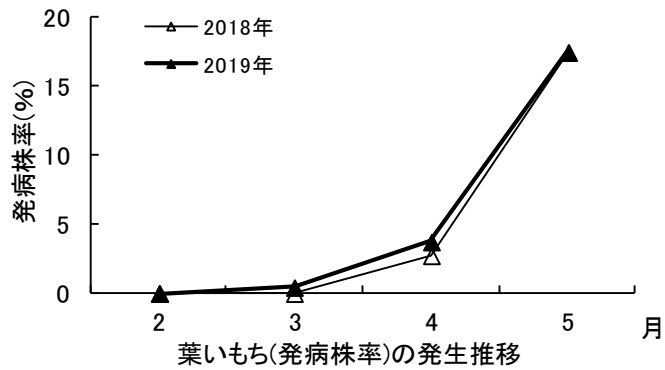
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率 : 37.5% (平年 : 31.9%)

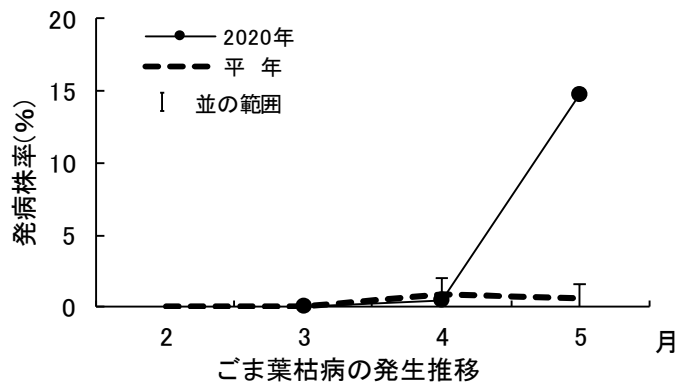
防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

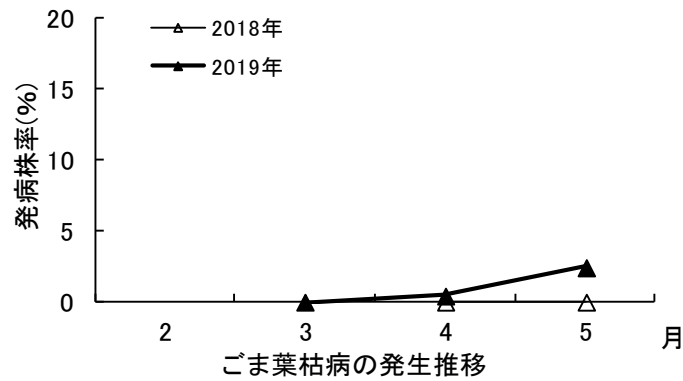
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② ごま葉枯病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：43.8% (平年：11.1%)

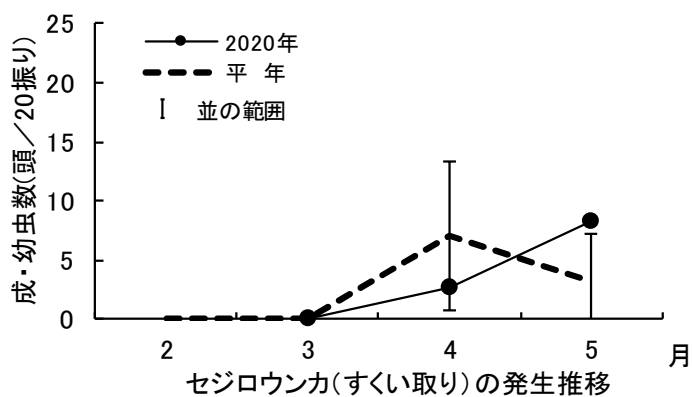
防除のポイント

- ・防除の基本は健全種子の確保と種子消毒の励行である。
- ・本田防除の基本は土壌改良と施肥改善による秋落ちの防止であるが、常発地では薬剤防除を実施する。

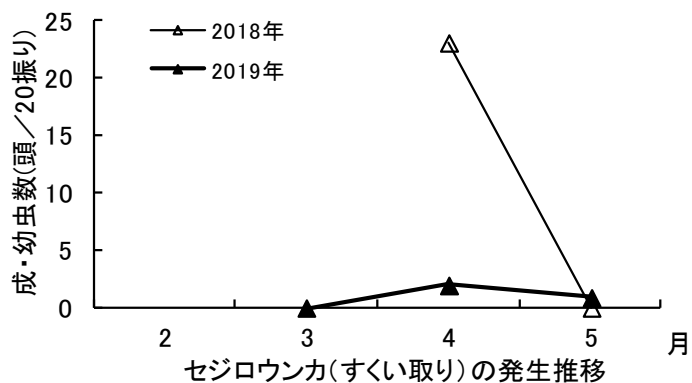
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ セジロウンカ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：87.5% (平年：40.2%)

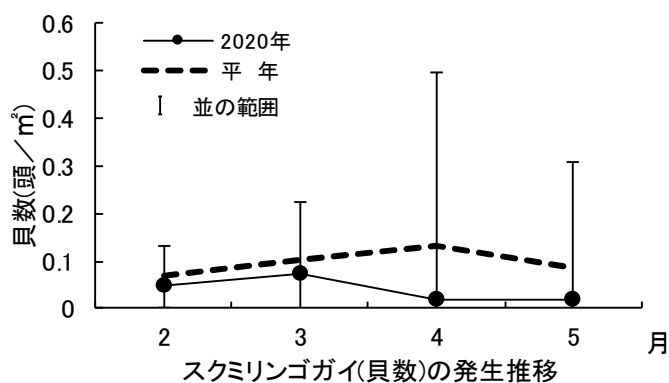
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

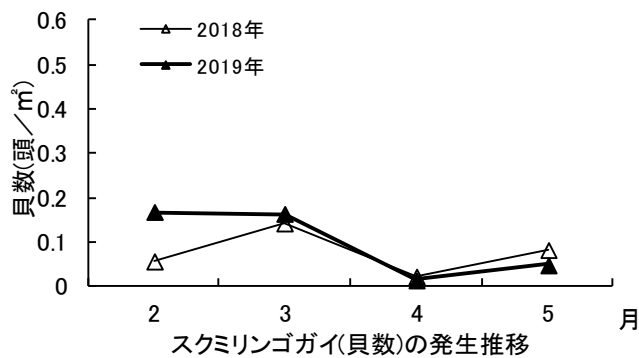
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ スクミリンゴガイ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



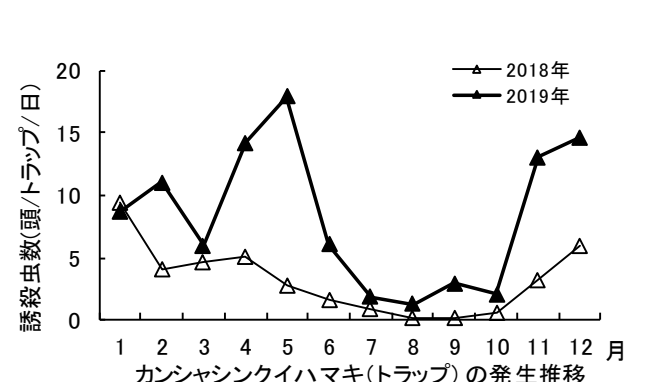
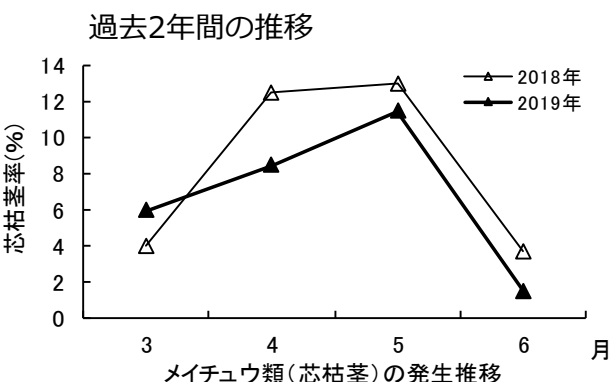
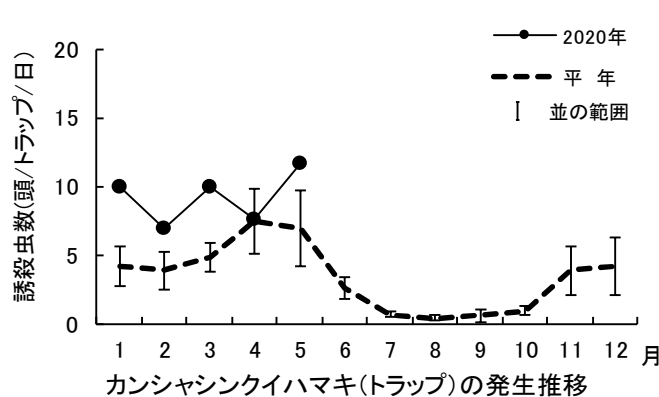
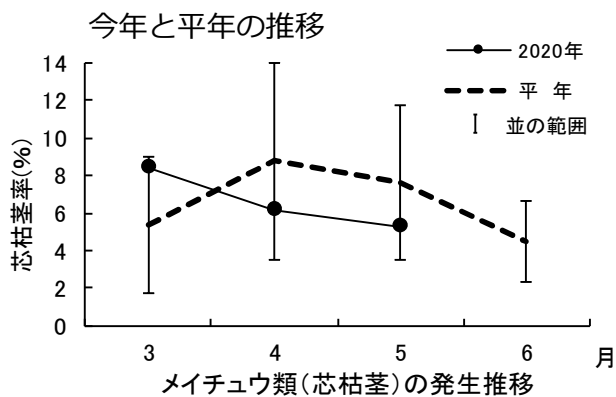
発生ほ場率 : 18.8% (平年 : 18.8%)

防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



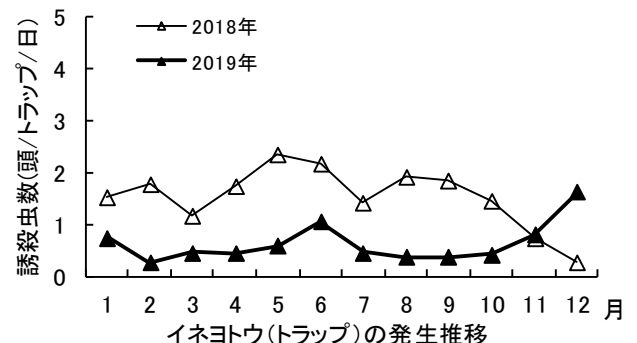
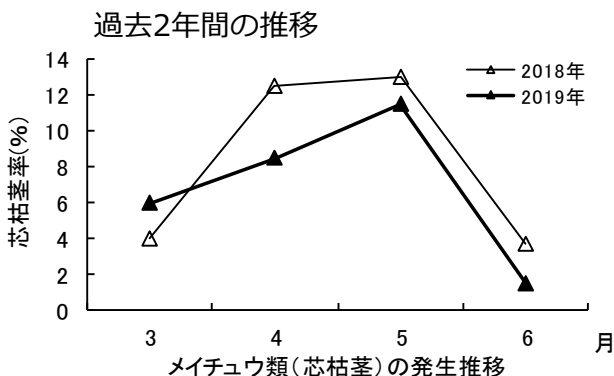
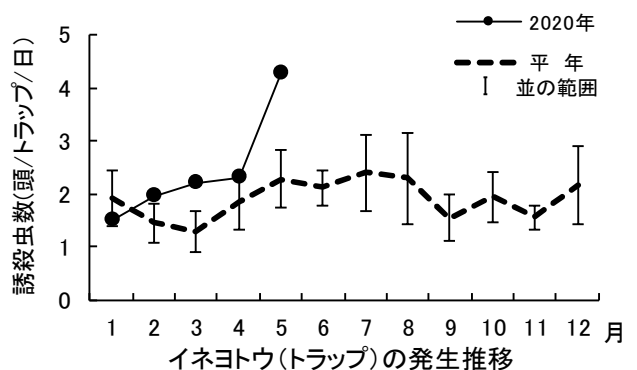
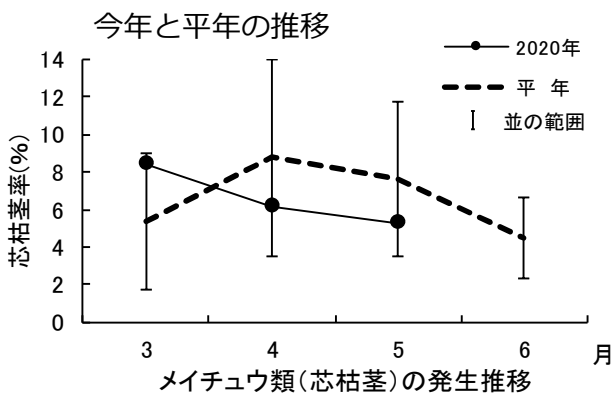
- ・ 芯枯れ発生ほ場率：93.8% (平年：93.8%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、90% (18/20頭) がカンシャシンクイハマキであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)	


調査結果



- ・ 芯枯れ発生ほ場率 : 93.8% (平年 : 93.8%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、10% (2/20頭) がイネヨトウであった。

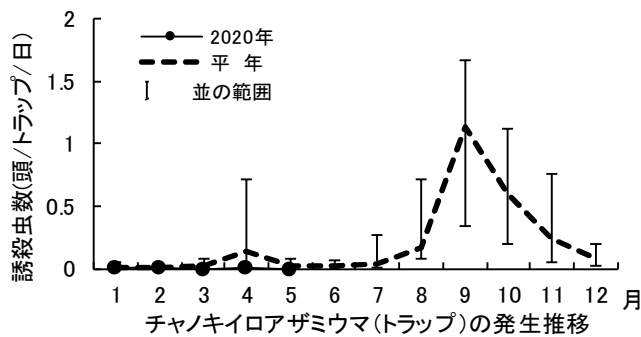
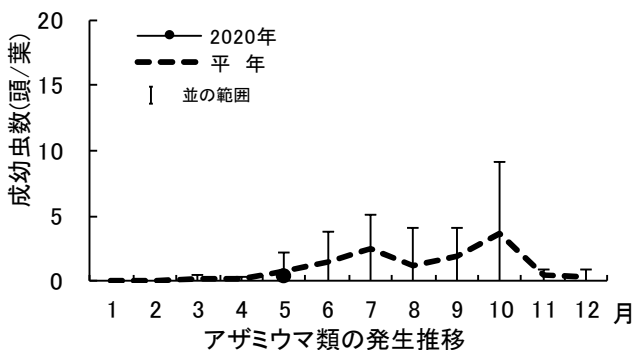
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

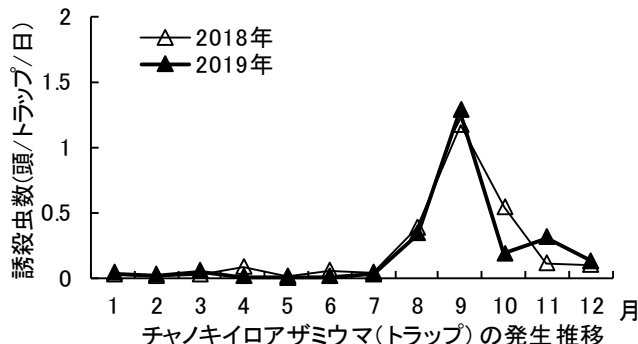
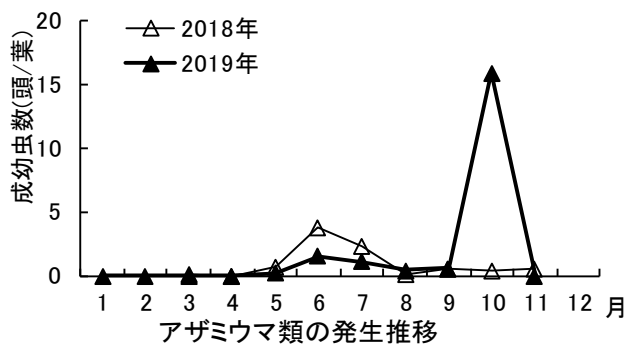
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：20.0%（平年：40.9%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

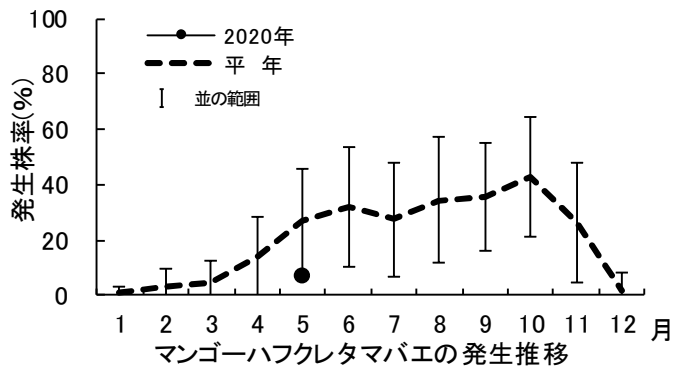


ナガエコミカンソウ

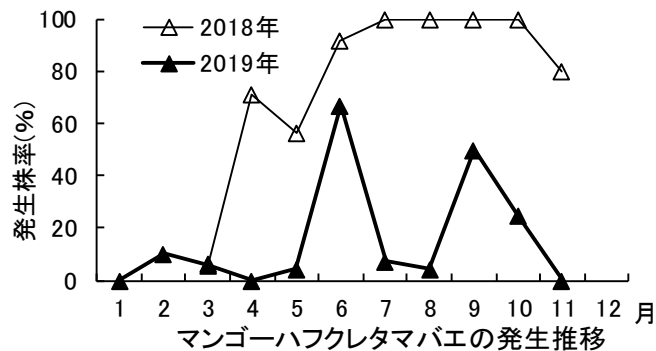
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年：48.8%)

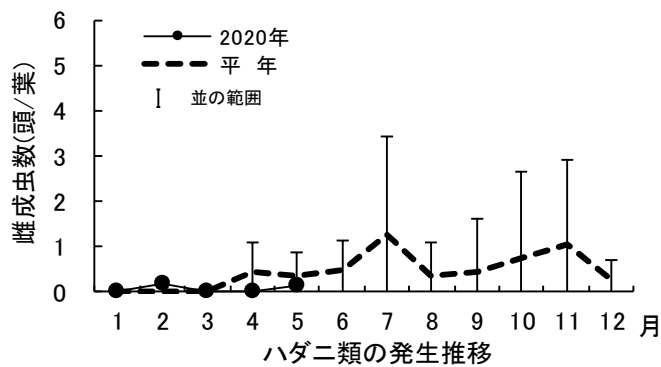
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

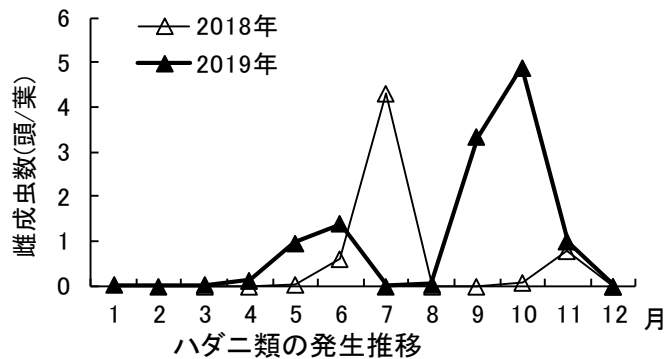
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生(ほ場率) : 20% (平年値 : 38.6%)

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

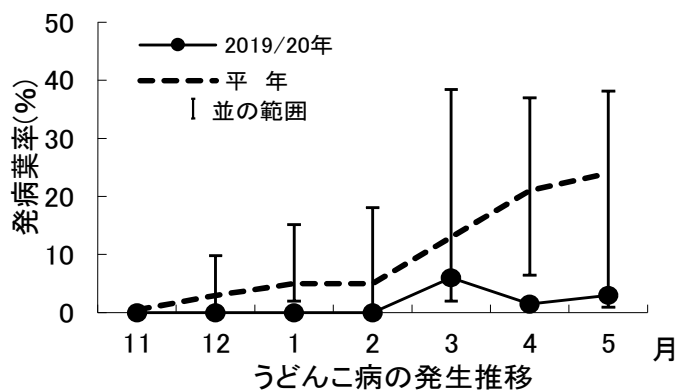


ハダニの寄生による葉のかすれ症

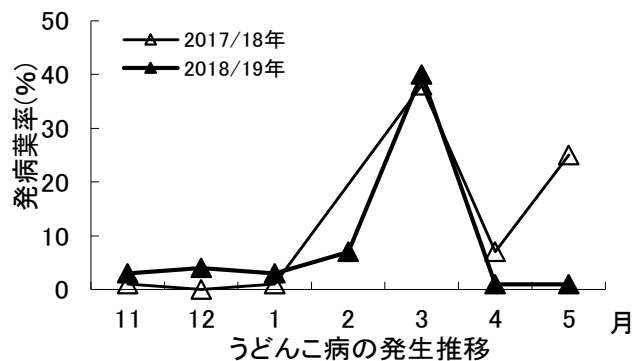
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：66.7% (平年：80.0%)

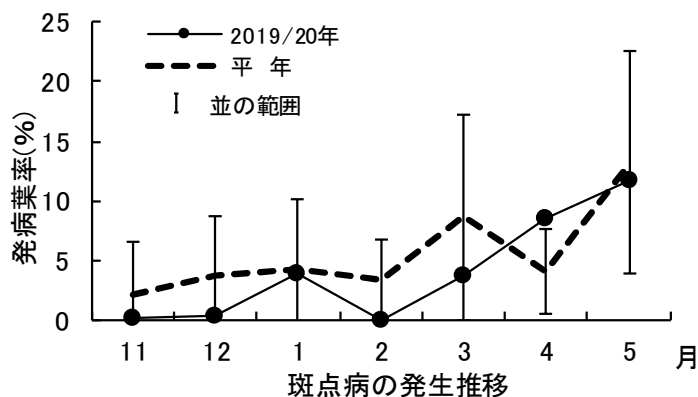
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

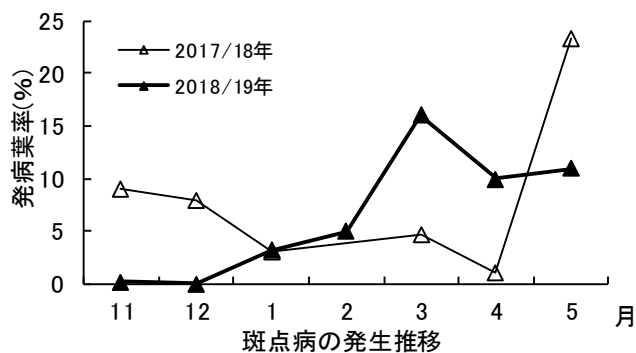
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：66.7% (平年：73.3%)

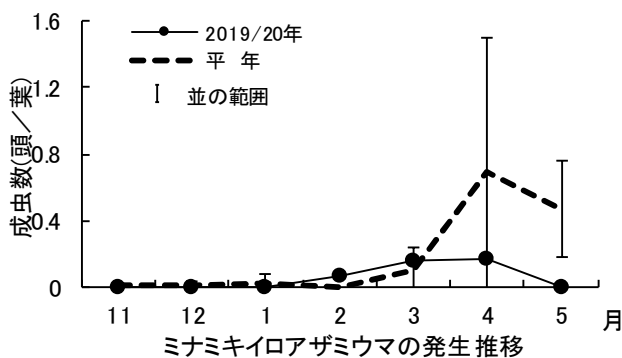
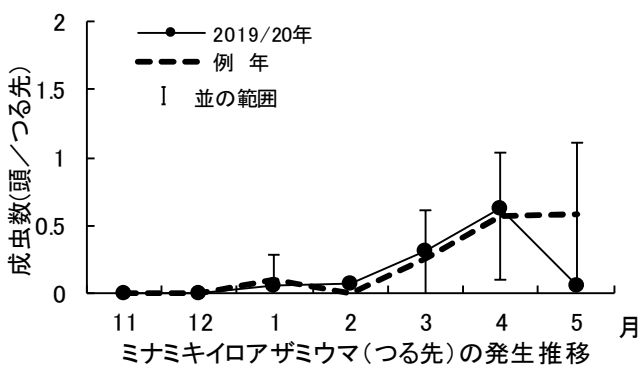
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

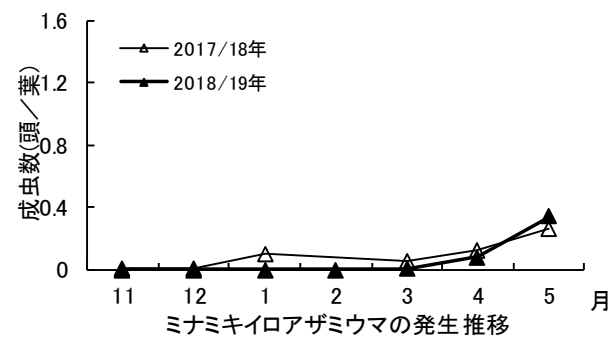
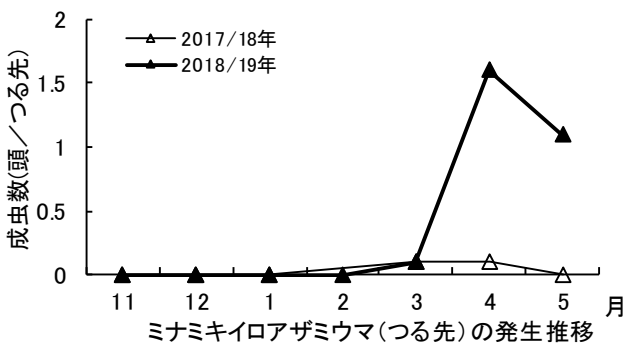
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・発生ほ場率：66.7% (平年：60.0%)

防除のポイント

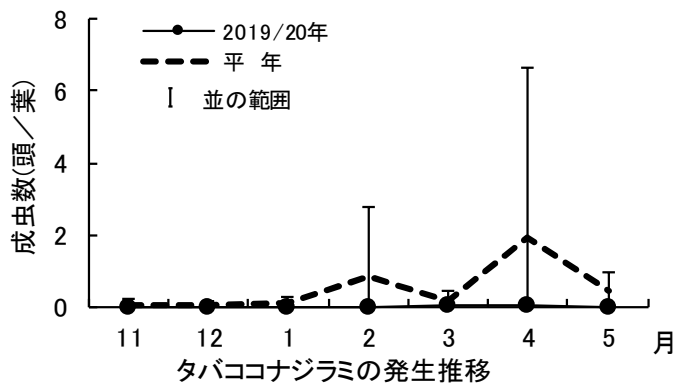
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



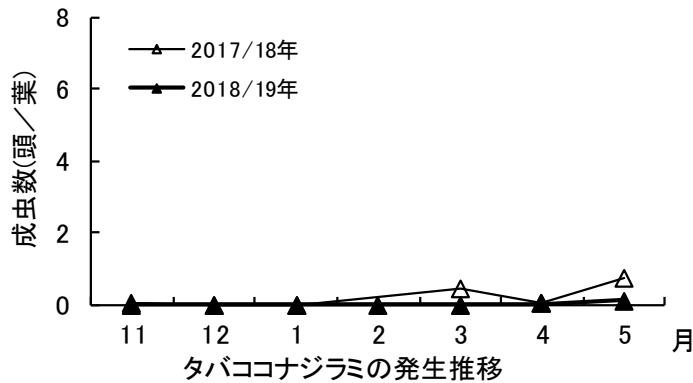
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	タバココナジラミ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：0% (平年：53.3%)

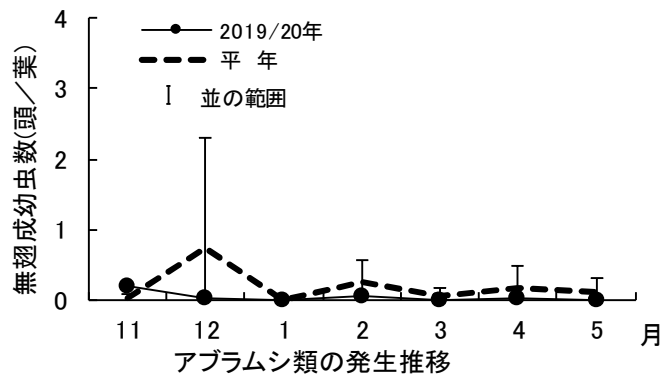
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

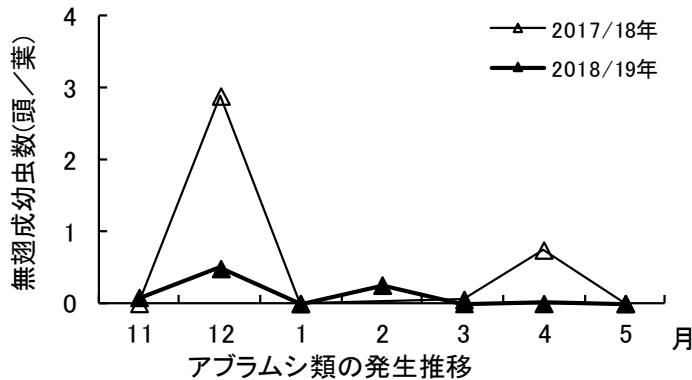
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	④ アブラムシ類		 <p>ワタアブラムシ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	—	
	5 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：33.3% (平年：13.83%)

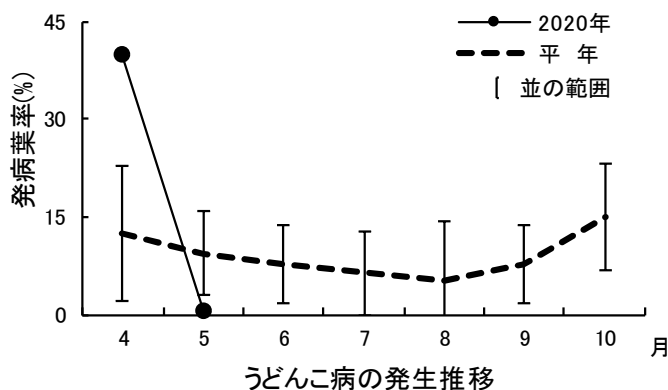
防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

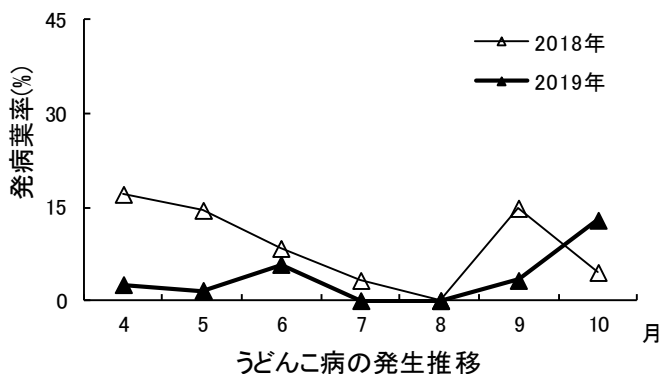
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 20.0% (平年 : 68.9%)

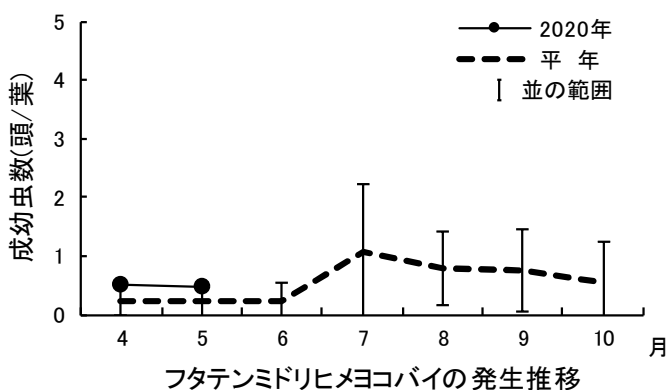
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

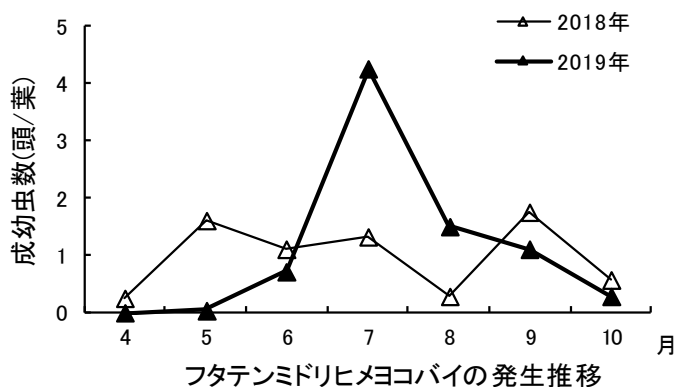
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：100% (平年：60.7%)

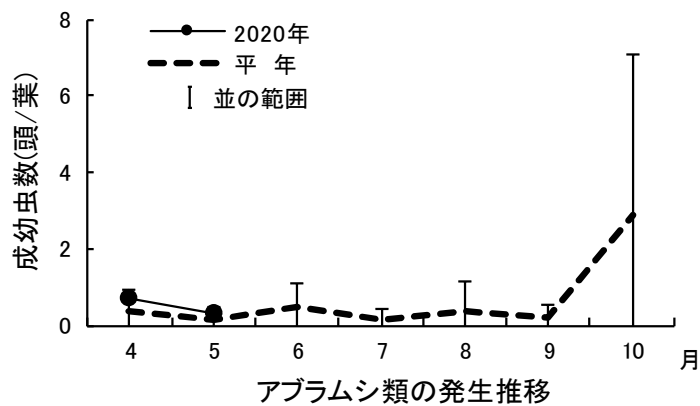
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

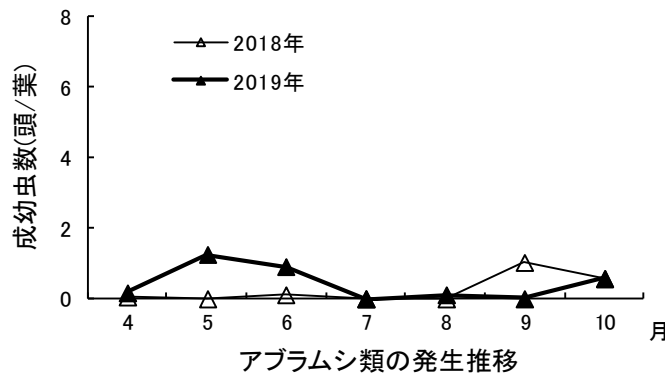
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 40% (平年 : 28.3%)

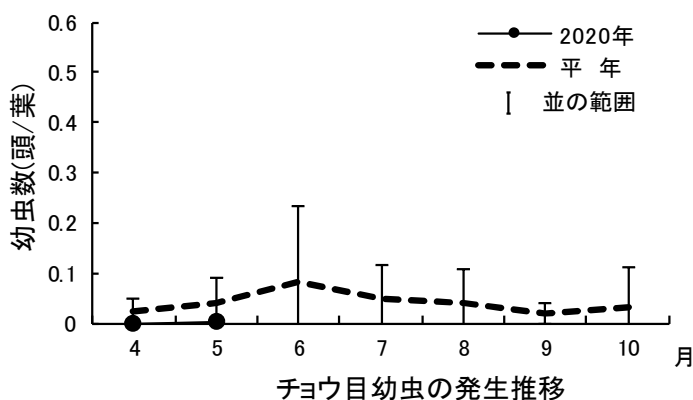
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

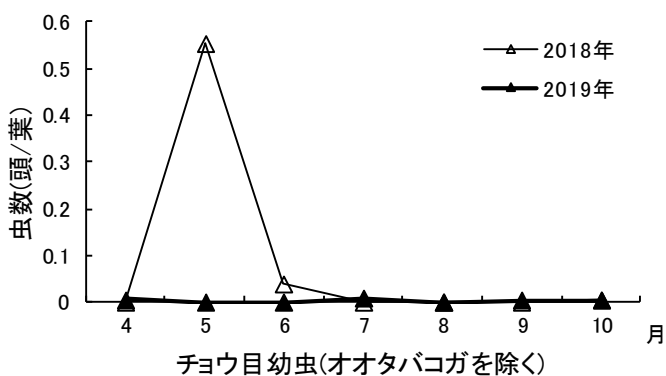
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		 <p>フタトガリコヤガ</p>
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生種：フタトガリコヤガ

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。